

令和7年度全国学力・学習状況調査結果【新木小学校】



国語

○平均正答率（県66%、全国66.8%）を比べると、本校は下回っている。

(1) 調査結果の詳細【○よかった内容 ●課題がみられた内容】

<知識及び技能> 全国平均より、下回っている。

- 「好(み)」「暑(い)」の漢字書き取り問題。(特に「暑」については、誤答率と無解答率が全国より約2倍。) 同音異義語の「厚」「熱」と間違えている児童が多いことが予想される。

<話すこと・聞くこと> 全国平均より、少し下回っている。

○話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題。

- 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる問題。

<書くこと> 全国平均より、下回っている。

- 目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題。(無解答率が高い。) 複数の条件に合わせて、記述することに課題が見られた。

<読むこと> 全国平均より、下回っている。

○時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができるかどうかをみる問題。

- 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる問題。
- 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることができるかどうかをみる問題。(無解答率が高い。)

(2) 今後の取り組み

- ・問題の傾向として「複数の資料(文章、絵、図、グラフなど)をもとに読み取るもの」が多いため、国語に限らず様々な教科で日常の学習から意図的に取り組ませる必要がある。
- ・条件のある記述式問題に慣れていくために、文章を読み取るだけでなく、「自分の考え」と「その根拠」を書く活動や条件に合わせて書く活動を日々の学習の中で行う。
- ・漢字小テストなどを定期的に行い、漢字を書く力をつける。また、同音異義語も取り上げ、文の意味に合うように正しく漢字を使えるようにする。

○平均正答率（県58%、全国58%）を比べると、本校は下回っている。

(1) 調査結果の詳細 【○よかった内容 ●課題がみられた内容】

＜数と計算＞ 全国平均より、下回っている。

- 棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかをみる問題。
- $\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ について、共通する単位分数と、 $\frac{3}{4}$ と $\frac{2}{3}$ が、共通する単位分数のいくつ分になるかを書く問題。（無回答率が高い。）
- 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題。（無回答率が全国の約3倍。）

＜図形＞ 全国平均より、下回っている。

- 角の大きさについて理解しているかどうかをみる問題。
- 台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題。
- 五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を式や言葉を用いて記述する問題。

＜測定＞ 全国平均より、下回っている。

- はかりの目盛りを読むことができるかどうかをみる問題。

＜変化と関係＞ 全国平均より、下回っている。

- 「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる問題。

＜データの活用＞ 全国平均より、下回っている。

- 簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができるかどうかをみる問題。（無回答率が全国の約4倍。）

(2) 今後の取り組み

- ・問題の傾向として「複数の資料（文章、絵、図表、グラフなど）をもとに、読み取るもの」が多いため、日常の学習から複数資料の読み取りを意図的に取り組ませる必要がある。
- ・考え方の過程を問う出題が多いため、日々の学習で公式や正解だけを教えることに加え、「なぜそうなるのか」を大切に教えていく。
- ・今年度は、普段の生活場面でありそうなことをテーマに一つの問題で複数の領域内容を問う出題が多かった。基礎だけでなく様々な知識を活用した問題に取り組む必要がある。
- ・自分の考えを数や言葉、式、図などで説明する活動を多く取り入れる。
- ・単純計算を正しく解くことができるよう、あきらき子タイム（15分間の学習）を活用し、計算問題に繰り返し取り組ませる。



○平均正答率(県57%、全国57.1%)を比べると、本校は下回っている。

(1) 調査結果の詳細【○よかった内容 ●課題がみられた内容】

<エネルギー> 全国平均より、少し下回っている。

○電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる問題。

●身の回りの金属について、電気を通すもの、磁石に引きつけられるものがあることの知識が身についているかどうかをみる問題。

<粒子> 全国平均より、下回っている。

●水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる問題。

●水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、事件の方法が適切であったかを検討し、表現することができるかどうかをみる問題。

<生命> 全国平均より、下回っている。

●ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身についているかどうかをみる問題。

●レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる問題。

<地球> 全国平均より、下回っている。

●赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現することができるかどうかをみる問題。(無回答率が全国の約3倍。) 実験結果を基に、考察を考えることに課題がみられる。

●氷がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解しているかどうかをみる問題。

(2) 今後の取り組み

- ・「課題の発見⇒学習問題を立てる⇒実験方法を考える⇒結果をまとめる⇒考察する⇒まとめ」といった基本の学習の流れに沿った出題が多かった。そのため、普段の学習でこの基本の流れを大切にして進めていく必要がある。
- ・「学習問題を立てる」、「実験方法を考える」、「考察する」、「まとめ」それぞれについて焦点を当てた出題があった。そのため、教師が一方向的に教える(示す)のではなく、児童自身が学びの中から考え、見いだせるようにしなければならない。
- ・理科の専門的語句や実験器具の扱い方など、基本的知識を問う出題があった。知識が定着しやすいよう、実際に実物を観察したり、実験器具を操作したりする活動を多く取り扱う。

児童アンケート【特徴的であった質問内容と回答】



【質問】朝食を毎日食べていますか。

【特徴】肯定的に回答している子の割合が、全国よりも低かった。また、否定的に回答している子の割合が、全国よりも約2倍だった。

【質問】将来の夢や目標をもっていますか。

【特徴】肯定的に回答している子の割合が、全国よりも低かった。また、「あてはまらない」と回答している子の割合が、全国よりも約2倍だった。

【質問】友達関係に満足していますか。

【特徴】肯定的に回答している子の割合が、全国よりも低かった。また、「あてはまらない」と回答している子の割合が、全国よりも約3倍だった。

【質問】学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか。(オンラインも含む)

【特徴】「教わっていない」と回答した子の割合が、全国よりも多かった。

【質問】学校の授業時間以外に、平日、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。

(塾や家庭教師に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)

【特徴】「30分より少ない」「全くしない」と回答した子の割合が、全国よりも約2倍多かった。

【質問】読書は好きですか。

【特徴】肯定的に回答している子の割合が、全国よりも低かった。また、否定的に回答している子の割合が、全国よりも約2倍だった。

【質問】これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありましたか。

【特徴】「よくしていた」と回答した子の割合が、全国よりも多かった。また、「全くしていない」と回答した子の割合も多かった。

【質問】地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。

【特徴】肯定的に回答している子の割合が、全国よりも低かった。また、否定的に回答している子の割合が、全国よりも約2倍だった。